

## 栃木県立美術館 平成 29 (2017) 年度事業等評価

### 1 趣 旨

平成 29(2017)年度県立美術館の運営について自己評価を行い、その結果を美術館評議員会に諮り、外部評価を実施した。なお、外部評価は平成 28 年に本格実施して本年度で2回目となる。

### 2 対象期間

平成 29(2017)年 4 月 1 日から平成 30(2018)年 3 月 31 日まで

### 3 自己評価総括

前年度の自己評価において不十分であった事項について、それぞれ改善に向けて取り組んだ。「計画的な収集作品の修復」や、「ボランティアの活用」など、引き続き対応の検討を進めるべき課題もあるが、限られた財源の中で新たな事業等にも意欲的に取り組み、また、幅広いファン獲得に向けて努力しており、これらを総合的に勘案すると概ね適正な運営であった。

### 4 外部評価所見

平成 29 年度の美術館の運営状況については、概ね適正に運営されたと判断し、次の項目を意見とする。

#### ① 既存事業の見直しについて

観覧者増加のための新たな取組も重要だが、美術館本来の機能である作品の収集保存や調査研究にも力を入れられるよう、既存事業の見直しにも取り組むべきである。

#### ② 教育部門との連携について

学校教員や保護者、社会教育関係者に、美術館をより身近に感じてもらい、また活用してもらえよう、学校や教育委員会等の組織と円滑な連携を図るべきである。

#### ③ 普及教育事業の推進について

美術館に求められるものも時代とともに変わってきている。作品の収集展示のみでなく、若い世代に向けた教育普及事業、とりわけ子供達への事業を推進すべきである。



### 5 取り組むべき課題

- 既存事業の分析
- 教育部門や教員との連携強化
- 若い世代に向けた教育プログラムのさらなる充実